

2023年5月22日

学校法人三幸学園
仙台医療秘書福祉専門学校
校長 水口 俊彦 殿

学校関係者評価委員会
委員長 沼田 健一

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 沼田 健一 (特別養護老人ホーム釜房みどりの園 施設長)
- ② 押野 博文 (みやぎ県南中核病院 医事課長)
- ③ 一條 陽子 (宮城厚生協会坂総合病院 経営企画室)
- ④ 斉藤 誉弥 (診療情報管理士科 2013年度卒業生)
- ⑤ 高清水 久実 (飛鳥未来高校仙台キャンパス 教頭)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年5月19日 (会場 仙台医療秘書福祉専門学校 302教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 仙台医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：教務課長 真田 美陽

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 沼田 健一

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

本校としては、自律・主体性を持った生徒の育成を目指し、全教員で教えすぎず考えさせる指導を行っている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

■学校運営について

方針・目標が全体に浸透しており、また運営体制もしっかり行われている。

情報共有がスムーズになったものの、講師歴が長い非常勤講師においては新しい取り組みへの順応が難しく、運営方針の浸透を丁寧に時間をかけて行う必要がある。

■教育について

技能教育については就職率も継続して高く(就職希望者 202 名の就職率 100%)、資格取得率も全国平均を超えており、医療機関や保育園、福祉施設の方を招いての実践的教育も行われている。チーム担任制により、複数教員が生徒の状況を把握しサポート体制を整えることができているが、目標喪失や人間関係の悩みにより前期の退学者が前年度より大幅に増加したため、カウンセリングの活用や教員指導力の向上が求められる。スライドを使用している授業展開やアプリを使用して確認テストを実施する教職員もいるが、ITリテラシーやPCスキルの差による課題は継続している。

また、同窓会を実施し、卒業生の早期離職防止や卒業後人材交流に努めた。

■その他

広報活動においては、少子化の時代においても確実に入学者を獲得している。

引き続き、地域活動・社会貢献のために新たな取り組みを検討し、卒業生支援などにおいて、医療機関、保育園や福祉施設と連携をより深めていく必要がある。

② 学校関係者評価委員会コメント

沼田委員：貴校は目標や計画に沿い、様々な面で問題なく運営している。

介護福祉科の実習生の受け入れが始まったが、挨拶がしっかり出来ている。

新型コロナウイルス感染症が5類となり世間的には落ち着いた傾向にあるが、行動記録やコロナの陰性証明書などの事前準備をいただき、学校内でも実習実施に向けての体制が整っていることがわかる。

昨年度より退学者が増えていることが気になるので理由を詳しく聞きたい。

退学者が増えていることについて、今後どのような対応、対策をしていくかが大事になってくると思う。

現場でも心が弱い方が多くなっているため、学校現場でも今後メンタルケアや対策が必要となる。
(医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科)

阿部さん：2021年度の退学率は5.7%、2022年度は6.2%だった。退学理由としては、人間関係の悩みや体調不良で通学が困難になった生徒が4割程度いたが、一番多い退学の理由は目標喪失であった。入学後の専門的な勉強が難しくついていけないこと、また通信制高校を卒業してきた生徒の退学も多く、毎日通うことに慣れていないことも影響しているのではないかと。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・生徒の現状や学習環境と、各業界の現状や求める人材像にギャップがあるため、そのギャップを埋める働きかけが必要である。

② 今後の改善方策

・生徒を取り巻く環境の変化を医療機関、保育園、福祉施設等の訪問の際にお伝えし、求める人材像とのギャップを埋めるために学校に求めることをヒアリングする。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

押野委員：求める人材については基本的には昔も今も変わらないが、実態としては心が弱い学生が多いのではないかと。今後、心のケアを含めた教育が必要になる。

専門学校としては就職させることが大事だが、学生自身が自ら進んで現在所属している学校、学科に進学したのかどうかによって就労後の意欲やギャップの感じ方も違ってくる。

現場としては、責任感が強く、忍耐力があり、心が強い学生が欲しい。

(医療秘書科・診療情報管理士科)

一条委員：現場では即戦力を求めているが、新入職員は挨拶、マナー等、まずは基本的なことがしっかり出来ているかが大事になる。挨拶ができないことが一番気になる。

現場では、入職後に心のケアが必要になり体調を崩すケースが増えている。

心のケアの仕方を学校でも指導していただくと就職後の様子がいくらか違うのではないか。

採用試験の際は事前に学校から病院側でどんな学生が欲しいのかのヒアリングし、情報共有を密にしてから学生を送ってもらえると入職後のギャップが減ると思う。

(医療秘書科・診療情報管理士科)

沼田委員：施設に昨年度実習した学生が介護実習に来て、希望して入職してくれた。

本人の希望で入職したため、取り組み姿勢がとてもよい。

在職中のスタッフでも対応を苦勞している利用者があるが、上手に対応が来ている。

現場では、観察力と考察力が大事。考察力は自分で考える力なので必要になる。

実習に来ている学生は、自分で対応を考える姿勢が見られるので、学校での指導が来ていると感じている。(介護福祉科)

(2)学校運営

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・情報システム化を推進しているが、教職員のPCスキルの差により、うまく活用できていない。
- ・ネット環境整備の不具合により、業務に滞りが発生していることがある。

② 今後の改善方策

- ・定期的な勉強会を実施し、PCスキル向上を目指す。
- ・学園本部によりネット環境整備を実施し、スムーズな通信環境を整える。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

一条委員：医療現場での PC スキルは、若い方は基本操作が出来ているが、年配の方は操作に時間がかかる。しかし、質問できる環境等を整備し、スキル向上できるようにしている。

情報管理部を設置し、適宜質問ができるようにし、PC が苦手な人にはその人に合ったスキルを提示し指導している。(医療秘書科・診療情報管理士科)

沼田委員：年々、ICT化が進んでいるので職員としてはPCを使えないといけない。

しかし、個人情報漏洩等の問題もあるので、学校教育からの指導は必須になる。

現在は SNS などでも良くも悪くも人に大きく影響を与えられるので、ぜひ学校にて SNS の活用についても教育してほしい。(介護福祉科)

斉藤委員：電子カルテの使い方などは、現場に出てから前職者から聞くことができる。

入職したての頃は資料をシンプルに作成しすぎて伝わらないこともあったが、先輩の資料作成はシンプル且つ、わかりやすい。文章をまとめる力、先輩たちの資料から真似る意欲も必要。

医師に向けての発信が必要なので、短時間で伝えたいことが伝わる資料の作り方が求められる。

職員のスキルとして多くの資料の完成形に触れ合う機会を作り、興味を持って取り組むことが自身のスキルアップや PC スキル習得に繋がる。(診療情報管理士科)

高清水委員：高校では 3 年生以外はタブレットを使用し、教科書は冊子、課題提出や試験はすべてデジタルで行っている。

学校としてタブレット使用を 2 年前から導入しているが、学校の方針での決定事項なので、教員には努力頂き、対応してもらっている。

教員も 2 年経つとだいぶ慣れてきて ICT アプリを利用し意見集約したり、みんなで問題に対する答えを出し合い確認をしたり出来ている。専門学校と比べると高校の方が ICT に順応していると思う。(医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科)

(3)教育活動

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位	4

置けられているか	
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・持病や障がい等のある生徒が増加しているため、教育到達レベル(資格取得)に達していない。
- ・退学率の増加に伴い様々な対応が求められるが、それに対し教職員の指導力が不足している。

② 今後の改善方策

- ・合理的配慮にも力を入れ、様々な生徒に対応できるような指導方法を習得する研修を実施する。
- ・卒業生講話の機会を設け、教職員の授業力向上を図るとともに、生徒と卒業生のコミュニケーションの機会を増やしていく。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

押野委員：障がいの者の採用については障がい者枠で行っているが実際の採用はほんのわずかである。

精神障害に関しては、その人ができる領域に合わせて業務を任せているが、実際採用後に対人業務になると仕事が困難ということが判明することが多い。受験者が面接対策をして試験に挑むため面接試験だけでは把握しきれず、コミュニケーション能力に欠ける人材の対応が一番難しい。採用試験受験の際に学校側から障がいの有無や、生徒の能力や得意不得意などについて伝えてもらえると、採用後の指導の際に助かる。一般採用試験では障がいの有無に関係なく、ある程度の基準を持って試験を行っている。

教員が合理的配慮等、知識を増やすことは良いと思う。(医療秘書科・診療情報管理士科)

沼田委員：障がい者採用を実施しているが、発達障害の場合は判断が難しい。

自覚がない場合もあるので、採用後に発覚することがあり、対応に困ることもある。

学校においてはカウンセリング等しか実施できないのではないかと。他校でもカウンセリングを実施しているようだが、教員がすべてを対応するのは難しいと思う。

引きこもっている生徒を学校に来させるのは学校教育の中で難しいことだが、就職後は別であり、学校に行けなければ、社会に出ても勤務をしていくのは難しいと感じている。(介護福祉科)

高清水委員：高校でも 50 名程度障がいなどを申告している学生がいる。

本人に障がいの自覚がなく、SOSの出し方がわからない、保護者が認めない場合もあるため、実態は不明。

高校では障がいなどについて生徒本人からの申し出があれば個別の対応もできるが、学校でできるサポートの範囲と家庭でのサポート範囲は線引きしている。

学校では対応しきれない部分もあるが、教職員の知識を増やすのはいい取り組みなのではと思う。(医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科)

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学率の低減。
- ・就職率は前年度よりも早く 100%を達成することができたが、就職先の選択肢が限られており、新規開拓が不足している。
- ・医療機関との関係性が構築できていないことにより、研修期間中に挫折してしまい内定辞退となるケースが多く見られた。

② 今後の改善方策

- ・退学率低減のために教職員を対象とした定期的な研修会やアウトプットの場を設け、事例を共有し、指導力の向上に努める。
- ・医療機関の求める人材と生徒のニーズをマッチングできるよう、エリア担当のプレゼン力や交渉力等コミュニケーション力のスキルアップを図り、訪問の質向上を目指す。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

押野委員：新卒では辞める人はほとんどおらず、中途や派遣で勤務している方の退職のほうが多い。

退職理由として多いのは、学校での学びと実際の仕事内容とのギャップが影響しているのではないかと。(医療秘書科・診療情報管理士科)

一条委員：就職研修で挫折するのはコロナのせいではないか。

コロナの影響で実習に行けていないため、実際の業務について理解できていないまま、就職しているとも考えられる。

実際の理由は多岐に渡ると思うが、現場での新しい知識が頭に入らず、自信喪失も考えられる。職場環境やそもそもコミュニケーション能力、自分から聞くこと、相談が出来ない人も増えている。インターネット上では会話ができるが、対面で直接相談ができないので退職となった事例もある。新人や実習生はみんなですぐ迎え入れる対策はしているが、何事もコミュニケーション能力が必要になる。迎え入れる側は、迎え入れる準備を整え、いつでもウェルカムな状態である。

(医療秘書科・診療情報管理士科)

斉藤委員：就労前に事前に業務内容について指導するべきである。

実際、自分自身も診療情報管理士の仕事をしたのは就職後数年経過してからだったため、資格に伴う業務と実際行う業務が異なる業務内容になることがギャップになっているのではと考える。資格と違う業務も医療業界の業務だと理解させ、資格を取得して従事する生徒には他業務に従事することもあることを事前に指導すると良いのではないか。(医療秘書科・診療情報管理士科)

(5) 学生支援

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・生徒の相談体制に関して、学科でチーム担任制を導入しているため、生徒自身がどの先生に相談する内容か、誰に相談するべきか判断しにくい環境にある。
- ・卒業生支援に関して、年1回同窓会を実施し卒業生との交流を行っているが、転職のサポート体制が整っていない。

② 今後の改善方策

- ・チーム担任制がより有効活用できるように、定例会議の中で担任としての在り方の研修やワークを実施し、担任力を向上させる。また生徒から相談しやすくするために、チーム担任制だが主担当クラスを設けて運営する。
- ・卒業生支援をしていくうえで、問い合わせ窓口を設け、同窓会 LINE を活用し卒業生たちが問い合わせしやすい環境をつくる。卒業生向けの求人が届いた際の周知の仕方を仕組み化する。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

押野委員：既卒者向け求人については事務系は不足している業務に求人を出している。

診療情報管理士については資格が条件となる部署は年齢など関係なく求人を出している。
(医療秘書科・診療情報管理士科)

沼田委員：福祉業界はどこの施設も法人も人材が欲しい状態で、今は無資格者も採用している。

年齢は確かに大事であるがそもそも人手不足のため、年代に関係なく採用している。

コミュニケーション能力の高い人、職場環境を良くするような人材を採用したい。(介護福祉科)

(6)教育環境

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・コロナ禍において学外実習機関の確保が難しく、学内実習となった場合の実習の質の向上に努める。
- ・消防設備点検にて設備の一部劣化・不備が発見された。
- ・緊急時の教員の対応・配置について全員が把握できていない現状がある。

② 今後の改善方策

- ・コロナ禍の収束に伴い、学内実習はしない方向だが、学外実習先の確保を早期化するとともに、実習時期の見直しを行う。
- ・消防点検の指摘箇所を速やかに修繕し、不備がないよう担当者中心に管理を行う。
- ・教職員向けに災害や緊急事態発生時の役割を周知し、適切な対応ができるように研修を行う。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

沼田委員：防災訓練は運営基準上、年に2回実施しており、そのうち1回は夜間訓練を実施している。

介護施設はシフト制で毎日勤務者が違うことから、緊急時に担当を決めて配置しても有事に不在の可能性があるため、職員全員に対して常に有事を想定した対応、頭の切り替えを指導している。訓練のための訓練は不要、有事を想定した事を常に頭に入れて行動するようにしており、有事の際の指揮者のみ決めている。

学校、施設の立地環境によっても対応は異なるため、学校の環境に合わせた危機管理をするべきである。(介護福祉科)

斉藤委員：防災訓練を年に一回行い、動線確保などそれぞれの担当が指揮する。

寝たきりの患者さんをどうやって運ぶか、運ぶのにかかる時間を確認し、設備に不備はないか等の確認もしている。

役割配置については消火班、案内誘導班などそれぞれ決めている。(医療秘書科)

高清水委員：危機管理マニュアルを作成しフロアごとに役割を決めて教員配置している。

主に地震に対する訓練を中心に行っている。(医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・コロナ禍により留学生の募集が難しかった為、留学生への支援制度や受け入れ状況を把握しておく。
- ・入学前と入学後の学校生活のイメージにギャップを感じる生徒がいるため、差を埋める説明を実施する。

② 今後の改善方策

- ・留学生の動向や受け入れについての情報を把握し、日本語学校等の訪問を実施する。
- ・生徒にヒアリングを実施し、ギャップに感じたことが何か把握する。またギャップに感じやすい点等を共有し、教職員が適切な説明を実施できるよう、研修を実施する。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

一条委員：入職後のギャップについては、やはり現場と学校では大きく異なるためギャップを感じやすい。

対策としては卒業生から情報をもらい、仕事内容などを生徒へ共有すると良い。

入職後にギャップがあることを教員も理解し、生徒指導をする。

(医療秘書科・診療情報管理士科)

齊藤委員：専門学校入学時に診療情報管理士の勉強は2年次から本格的に始まることを知らず、入学当時はなかなか専門的な勉強が始まらなと、ギャップを感じていた。

就職してからは公立病院に就職したが、同じく専門的な業務だけでないところにギャップを感じた。異動で勤務形態が変わるのもギャップを感じる要因になる。(診療情報管理士科)

(8)財務

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・個人情報の管理、保護の強化。

② 今後の改善方策

・個人情報に関わるデータ等は全てパスワード設定、書類は施錠できる棚へ保管する。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

押野委員：医療現場では先生方の学会データ等で医療データが必要になることが多いため、個人情報提供の際には利用目的を明確にし、利用申請書を記入し、どんな情報を提供しているかの管理をしている。患者さんに対しても同様に個人情報提供の際には申請書を記入してもらっている。

院内では患者さんの情報をいつ、誰に、どんな情報を出したかを管理しており、求められたものに対して、きちんとした情報が提供できているかも管理している。（医療秘書科・診療情報管理士科）

高清水委員：個人情報を大量に扱うので、施錠、パスワードは必須。

メールや郵送の際は、宛先を間違える等の人的ミスがあるので、何か問題が発生した際は、すぐに情報共有し同じミスが起こらないようにしている。

（医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・コロナ禍に伴いボランティアや産学連携の機会が減ったため、地域貢献の機会を新たに検討する。

② 今後の改善方策

- ・制作物(保育壁面装飾および玩具)の提供等を継続的に実施し、産学連携を強化していく。
- ・地域の方と交流の機会を設ける。
- ・コロナ禍の収束に伴い、施設訪問の際にボランティア活動等の連携を提案していく。

③ 特記事項

・地域の園児を招き、保育行事を実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

押野委員：コロナ禍はボランティアを控えていたが、今後ボランティアは可能で夏休みなどを利用して行う。

院内の誘導をするだけでも患者さんには心強いし、気軽に聞けるボランティアがいることにより患者さまへ与える安心感が違う。(医療秘書科・診療情報管理士科)

一条委員：コロナ禍ではボランティアを控えていたが、コロナも落ち着いてきたので受入れも検討している。

図書室などでボランティアを可能にしている。(医療秘書科)

沼田委員：対価を求めずともボランティアをしてはいけない。

ボランティアでは心の教育が必要となり、心の教育が社会に出て役に立つと思う。(介護福祉科)

斉藤委員：現在、外部業者に受付での検温など委託しているので、その業務を学生にボランティアとして依頼することは可能だと思う。車いすの方の誘導などもできるのではないかと。

他にも看護師たちが作成している小児科の壁面装飾など学生へ依頼することもできると思う。(医療秘書科)

(11)国際交流

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

- ・コロナによる留学生の入国規制が緩和されたものの、日本語学校の卒業生が少なかったため入学に繋げることができなかった。
- ・介護職に対する認知度が低いため、本校の認知拡大とともに、日本語学校と連携を図り職業理解度を上げる必要がある。
- ・留学生の受け入れ先(実習・就職先)の確保や、日々の授業サポート体制の充実が必要である。

② 今後の改善方策

- ・定期的な日本語学校訪問や留学生に対するガイダンスの実施。
- ・留学生の受け入れについて理解を深められるよう、介護福祉科にて実習指導者研修会の実施。
- ・介護実習先訪問の際に、留学生の受け入れ状況をヒアリングし、就労に対する理解を深めていただく。

③ 特記事項

- ・東北6県にある日本語学校へ、卒業生数や進路希望業界のヒアリングを実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

沼田委員：施設でも留学生を迎えており、教育に1年かかり、1年でやっと夜勤が出来るようになる。

どうしても介護業界の勤務は難しいことが多いので慣れるまでに時間がかかってしまう。

今後、日本に来る留学生が増えるのかどうか懸念しており、円高で来日しなくてもお金が稼げるのではないかと思う。

宮城県では介護人材確保の対応として外国人採用の動きがあるので、情報が入り次第共有する。

(介護福祉科)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今回の学校関係者評価委員会の結果から、学内全体の動きをコロナ前の状況に戻していくことが課題としてあげられる。また生徒指導においては、退学率の低減を図ると共に、社会人として職場で活躍できるよう、指導されたことを素直に受け止める姿勢や強い心を持てるよう育成していく必要がある。

産学連携活動やボランティア活動も、医療機関・介護施設と連携を図り、生徒が参加できるよう体制を整える必要がある。

昨年度から残された課題を意識し、業界の変化をキャッチしながら求められる人材の育成に努めていくことが重要である。

【学校関係者評価委員会コメント】

沼田委員：自己評価が十分に出来ており学校として課題を抽出し、それに対する対策をしていると思う。

自己評価、学校関係者評価を真摯に受け止め、改善を図るべき箇所については今後整理し、改善し、より良い学校運営を目指していく必要がある。

そのためには全教職員での認識の共有が大事になるのではないかな。

新型コロナが5類に移行し、世の中の感染対策の意識が緩くなりすぎていると感じるところもあるため、今後学校としては継続して、コロナ対応やコロナによる生徒への影響も意識して取り組んで欲しい。